



トキメキはありましたか？

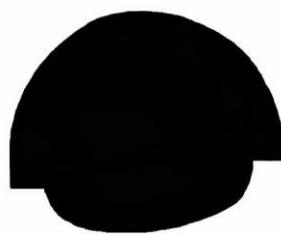
あっという間に3月になりました。あと1か月で今年度が終わります。それにしても、毎年だんだん1年が経つのが早くなるような気がします。子どもの頃は1年が短いなんて考えたことがなかったのに、大人になったらどうしてあっという間に過ぎてしまうのでしょうか。

私は、「分数理論」と勝手に名付けて自分なりの答えを考えました。分数は、分子が同じ数だったら分母が大きい方が小さくなります。例えば、1つのケーキを半分に切った $1/2$ （2分の1）と、それをさらに半分に切った $1/4$ （4分の1）では、同じ1切れでも $1/4$ の方が小さいですよね。その考え方で、分子に今年の1年を、分母に自分が生きてきた年数を当てはめるのです。そうすると、同じ1年でも、10歳の1年間は10年間生きてきたうちの1年で $1/10$ だけれども、50歳の1年間は50年生きてきたうちの $1/50$ になります。 $1/10$ と $1/50$ では、 $1/50$ の方が小さいので、短く感じるのではないかという考えです。こう考えて、毎年どんどん1年間が短くなるので、年をとると1年が早く感じるようになるというのが、分数理論です。なかなかいい考え方でしょう？

でも、某テレビ番組でおかっぱ頭の永遠の5歳の女の子は、この疑問の答えを「**大人になるとあっという間に1年が過ぎるのは、トキメキがなくなったから～。**」と言っていました。子どもの頃は、出来事の一つ一つに心を動かされているけれども、大人になると物事に感動しなくなるので、同じ時間でも違って感じるというのです。例えば、晩ごはんにハンバーグが出たとします。子どもは、それを見て「わーっ、ハンバーグだー！」と思うけれども、大人はよほど大好物でない限り、そこまで感情が盛りあがりません。確かに、給食室にある今日の給食サンプルを見て、「ヤッターッ！」と喜ぶ子はいますが、大喜びしている先生を見たことはありません。（心の中で叫んでいるかも知れませんが…。）ですから、こうした一つ一つの出来事に心を動かされているから、子どもは時間をたっぷりと感じているのではないかというのが答えでした。では、なぜ大人になるとトキメキがなくなるのでしょうか。大人は忙しいからでしょうか。でも、大人だけが忙しくて、子どもが暇だということはありません。子どもだっていろいろやることはありますし、1日の時間は同じ24時間ですから。そう考えると、物事に心がときめくのは大人だってできそうな気がしますが、なかなかそうはなりませんね。

ところで、学校はどうだったでしょうか、子どもたちにとってトキメキのある場所だったでしょうか。遠足や運動会など、たくさんの学校行事で心がときめいたでしょうか。行事だけでなく、毎日の学習で、できるようになったりわかるようになったりした喜びや、学級の仲間と一緒にやり遂げたり競い合ったりした熱い気持ちで、ときめいたでしょうか。

時には、そんな素敵なことではなく、失敗して恥ずかしかったことや、思い通りにいかなくて悔しかったこと、友だちとトラブルになって心細くなったりしたことや、先生に叱られて悲しかったこともあったでしょう。それ



※許可を得ていないのでこれが限界です

はトキメキとは言えないでしょうが、そうしたマイナスの感情も心がゆり動いたことには違いありません。

そして、そうしたたくさんの経験と感情が、子どもにとって成長の糧になっていくのだと思います。良い思い出も悪い思い出も、全部自分の力になるはずです。学校は、心地よい成功体験だけを積む場所ではありません。失敗や困難から学ぶことで、本当の力になることもずいぶん多いのです。

学期末を前にして、子どもたちはこの1年間を振り返るでしょう。できしたことや頑張ったことだけでなく、ぜひ自分の心のトキメキ具合も振り返ってくれたらと思います。そして、私たち教職員は、これからも学校が子どもたちにとって、心がときめく場所であるように努力したいと思います。

ところで、私には、この1年間どれくらいトキメキがあったのでしょうか。あっという間に1年が過ぎてしまったということは、あまりときめいていないのかも知れませんね。このままだと、あの子に「**ボーッと生きてんじゃねえよ！**」と叱られてしまいそうな気がします…。

1年間のおわりに

ここ数年、教員の過重労働問題がよくニュースになっています。学校では、働き方改革の流れの中で、教育の質を下げずに適正な労働環境を作っていくことが、課題となっています。教育委員会も何とかしようと、学校の電話に自動音声応答を設けたり、欠席連絡アプリを導入したりといろいろお金をかけてくれています。さらに2月からは、時差勤務制度といって、勤務時間を前後1時間繰り上げや繰り下げができる制度が始まりました。もともと大阪市の教員の勤務時間は午前8時30分から午後5時です。しかし、子どもたちは8時過ぎに登校してくるので、多くの先生は8時前から出勤しています。勤務開始の時刻を8時としたからと言って、終業時刻が早くなるだけで、仕事量が減るわけではないのですが、少しは整合性が取れるのかもしれません。

確かに、教員の仕事量は、一般的に非常に多いです。学校は常にビルドアンドビルドで、新しい取り組みはどんどん始めますが、代わりにこれをやめますとはなかなかなりません。（校長の裁量でやめることができるものもありますが、なかなか難しいです。）しかし、そんな中で我々の心を支えているのは、子どもたちができた、わかったといった時のうれしそうな顔や、思いが通じて子どもが成長した姿を見たときの充実感です。そうした時、本当にこの仕事をやっていてよかったですなど思います。また、保護者の皆様からの温かいお気持ちをいたいたいた時には、報われた気持ちになります。そして、何よりも、学校と保護者と地域が同じ方向を向いて教育をすすめていくことが、私たちの大きな支えになっています。ですから、教員の働き方改革は、続けていく必要がありますが、私たちが大切にしている教師としての矜持は、

これからも持ち続けていくべきだと思っています。

最後に、この1年間、至らぬ点が多々あったと思いますが、皆様のご理解とお力添えに対して、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

